

(1)「ささえあい」を進める担い手へのヒアリング調査結果から出てきた課題

1 ささえ合い事業(協力員)

【主な課題等】

- 1 町内会等各地区にこの事業を広げ、不公平感のない支援実施や組織体制作りやノウハウの提供が必要だが、独自の取組を実施しているところが少ない。
- 2 区民(利用希望者)へのPRが十分できていない。
- 3 利用率が低調であるため、その原因を分析する必要がある。

2 ボランティア団体

【主な課題等】

- 1 対象者からの依頼が少ない。(団体により差有り)
- 2 既存の情報発信だけでは、対象への周知が困難
- 3 それぞれの取組をPRする場面が必要
- 4 活動場所、人材の確保や活動資金などの問題

3 町内会・自治会

【主な課題等】

- 1 利用者(高齢者・障がい者・子どもなど)の情報入手するのが困難(行政からの情報提供が限定している)
- 2 民生委員の業務負担が多い
- 3 役員などのなり手不足と高齢化の進展
- 4 役員任期が短く、新たな課題への対応が困難

4 その他(高齢者のメンタルヘルス)

【主な課題等】

- 1 今後、高齢化の進展に伴い、介護生活や単身高齢者が増加し、高齢者のメンタルヘルスが大きな問題となる。
- 2 平成21年の自殺者の内、60歳以上の方が占める割合が37%と高い割合を占めている。

(2) 解決策の具体化

【広報活動】

- ・ささえあいを必要とする高齢者、障がい者に情報が届く広報方法の検討(例: 市政だより区版特別号等の活用)
- ・各団体の取組をPRできる機会の検討(例: 区民会議フォーラム等での場の提供)

【担い手】

- ・ボランティア団体と連携した地域活動の実施
- ・民生委員活動への支援体制づくり
- ・地域人材の発掘方法の検討

【地域の絆づくり】

- ・町内会・自治会等によるささえあい事業の運用展開
- ・小地域で見守りを行う制度の検討
- ・地域活動等を通じた地域交流の場の検討

【その他】

- ・コミュニティバス(高齢者の交通手段)の検討
- ・「コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワーク」が機能するための取組の検討

【取組を進める上での共通した検討事項】

- ・現在行われている事業の内容の見直しなどの検討
- ・ボランティア団体、町内会・自治会、区社協、区などの役割整理とその上に立った連携

各委員から提案された具体的な取組内容

経過と今後の進め方・補足など

I	<p>市政だより麻生区版を活用した広報活動の実施</p> <p>→高齢者・障がい者などを対象に、行政・地域包括支援C・区社協・民生委・町内会などが提案する各サービスや制度を総合的にわかりやすく紹介した特別号を編集・配布することを区に提案する。</p>	<p>※全区民に広く紹介する広報媒体として、市政だより区版の活用を提案</p> <p>※平成24年度中に発行予定</p>
	<p>ガイドブック(保存版)の発行</p> <p>→上記にボランティア団体などを加え、サービス内容や機関・施設名を加えたガイドブックの編集・発行を区に提案する。</p>	<p>※より区民目線に沿った保存版を検討</p> <p>※原稿案を作成し、掲載内容の追加も含めた精査(継続中)。具体的な発行時期は未定</p>
	<p>各取組をPRできる場の設定～第2回区民会議フォーラムを活用</p> <p>→別途、企画案に基づき企画案の作成と詳細の検討を進める。</p>	<p>※ヒアリング実施団体等を中心に、第2回区民会議フォーラムの際、展示ブースを開設</p>
II	<p>担い手～地域人材の発掘と育成に関する提案</p> <p>→新規担い手の参加促進、知識や経験を地域へ応用する機会の提供、誰もが参加しやすい組織・環境運営、人材育成に関する行政支援などを提案する。</p>	<p>※人材の発掘と育成についての提案</p>
	<p>地域活動の担い手づくり～生涯学習との関わりから</p> <p>→市民館における「地域活動の担い手づくり」取組についてのヒアリングを受け、現状把握と課題認識・考察とともに報告にまとめる。</p>	<p>※市民館へのヒアリング実施</p> <p>※生涯学習推進会議の動向も踏まえ、関係機関が連携した「担い手づくり」を検討</p>
III	<p>ささえあい事業推進の提案</p> <p>→各町内会・自治会での既存の取組強化を図り、未実施の自治会等への事業展開をするべく、その方法と事業内容案を行政・区内各自治会に提案する。</p>	<p>※区社協のささえあい事業の把握と課題整理</p> <p>※「地域の絆づくり」「ささえあい」を基盤とする本事業の展開方法を検討</p>
	<p>「高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり」の考え方と取組について</p> <p>→地域で日常的な人・組織・隣近所のささえ合いがあり、いざという時の声かけ等ができる環境づくりのため、既存行事の運営方法の工夫などを提案する。</p>	<p>※町会へのヒアリングから「絆づくり」「ささえあい」の先行事例を紹介</p> <p>※町会単位、隣近所レベルでの具体的な「絆づくり」の手法を提案</p>
	<p>町内会、民生委員への働きかけを検討</p> <p>→地域のささえあい活動の中核である民生委員の現状と課題を把握し、民生委員と行政へ運営改善や制度等の見直しを提案する。</p>	<p>※町内会や民生委員の現状と課題を把握</p> <p>※ささえあい活動を担う人たちへの働きかけについては、継続審議</p>
VI	<p>ご近所防災マップのモデル作成と紹介</p> <p>→「ご近所防災マップ」のモデルの検討とPRツールの企画作成などを提案する。</p>	<p>※隣近所での「絆づくり」の一手法として紹介する予定</p>
IV	<p>区社協の事業と利用状況等分析と考察</p> <p>→区社協による数多くの高齢者・障がい者を支援する活動について、既存の広報紙の記載内容の改善や、地域包括支援Cとの窓口機能の連携強化、具体的な活動紹介を含めた広報内容の充実や情報の配布方法の改善などを提案する。</p>	<p>※区社協の事業・活動と実績を学習</p> <p>※課題抽出から見た、利用者の少なさ等の課題を、広報による解決に期待</p>
V	<p>高齢者の交通手段の確保</p> <p>→高齢者の所在・人数調査とともに、区内を柿生地区・麻生東地区に分けたコミュニティバスの循環運用の検討を提案する。</p>	<p>※課題と現制度・市方針を把握。</p> <p>※高齢者の課題として検討したことを報告</p>
VII	<p>「コミュニティ・メンタルヘルス・ネットワーク」が機能するための取組の検討</p>	<p>※課題把握。今期の審議では取り扱わない。</p>

高齢者・障がい者などが暮らしやすい環境づくり